

3学期始業式(1月7日)に、「1月は往ぬる、2月は逃げる、3月は去るといって、月日や時間の経つのが早いからねえ」と生徒に話しましたが、やはりその通りのようです。もう1月最終週に入りました。気が付けば、新学期になっていますよ。

右の写真は、1月17日(月)に行われた高校1年生の「英語スピーチコンテスト」の一場面です。このコンテストは、平和学習の一環として取り組まれましたが、夏休みに平和資料館で調べ学習をし(発表会を実施)、10月には「被爆ピアノ平和集会」の開催。そして、平和への想いを英語で表現することで一連の学びを結集したものです。被爆地ヒロシマに生きる者として為すべきことは何かと、その使命についてクラス代表一人ひとりが英語で見事に語りきっていました。Excellent!!



## 「努力で運命を切り開く」

先日1月15(土)・16日(日)の2日間、「大学入学共通テスト」が実施されました。これまでの「大学入試センター試験」から移行して2年目の試験となりましたが、かつてなかった難化問題だということもあり、結果が思わしくなかったようです。これまでの努力が実ったのかどうなのか、実らなかったとしたらどこに原因があったのか。確実に分析し、努力する方向や機会は異なるかもしれませんが今後の取り組みに活かして欲しいと願っています。

さて、年明け最初に読んだ本について触れたいと思います。幸田露伴(1867~1947 小説家)の『努力論』(『幸福のための努力論』エッセンシャル版)を読みました。その一部内容を紹介します。

「われわれは、自分が努力したことの成果がならず、無駄になってしまうことを嘆いたりすることがある。しかし、努力の成果があがるかあがらないかによって、努力するかしないかを決めてはいけない。努力は成果と関係なく、するべきものなのだ。そもそも努力というのは、常に成長していきたいという情熱をもって生まれた人間本来の姿なのだから」。

「努力というものは、よく見れば二種類ある。一つは『直接の努力』。もう一つは『間接の努力』である。直接の努力というのは、さしあたっての当面の努力で、目の前のことに全力を尽くすことだ。その一方、間接の努力というのは、将来に向けて準備を行う努力、基礎となる努力だ」。

「人間はある程度努力すれば、それに見合った結果が得られる。しかし、努力したにもかかわらず、よくない結果に終わることもある。なぜそうなるのか。それは努力の方向が悪かったからか、そうでなければ、間接の努力をせずに、直接の努

力だけをただけである」。

「幸運を引き出す人は常に自分を責めるものだ。(中略) 不運を招く人はいつも自分を責めずに、他人を責め、恨む。また、いつも柔らかくて手触りの良い綱ばかりをつかんで、自分の手のひらを痛めようとしな。自分の手のひらから赤い血を流すほど自分を責め続けるのか、それとも、いつも柔らかくてすべすべしたものばかりを握っていたのか。この違いは、自分の運命が将来良くなるか悪くなるか、その明確な目安になる」。

読後、この年齢(60?歳)になっても胸に手を当てて沈黙考せざるを得ませんでした。努力の仕方はどうであったか、結果が出なかったときはどうしていたのか、「運も味方」と思いながらもそれを引き寄せる意味を問うていたのか、ということ。近年もそう、随分と過去のこともそう、上手くいかなかったことを他人や違うものに転嫁し、言い訳がましいことを言って同情を買おうとしていなかったらどうか。逆に、首尾よく叶ったときは相応の汗水を流し、心底からの満足感で満ちていたのかどうか・・・と。

先日、ある部活の生徒が公式試合の敗戦を受け、今後に向けてどうするか伝えてくれました(紙に書いて)。「改善点は、意識を高くして全員が練習に臨むこと。そのためには、どうすればやる気が出るのか、試合に勝てるのか、上手くなれるのか、一步一步成長していきたい」と謙虚に自戒し、努力なくして勝負運が巡ってこないことを自問しているように思えました。実践すれば運が必ず巡ってくるでしょう。頑張れ!

「うまくいかなかったら自分のせい」とシンプルに思うことで更なる努力に転化し、運を味方していきたいと改めて痛感させられました。